20027

OFDI 施行時の生食による血球除去フラッシュで Hematoma 形成した 1 例

【背景】OCT/OFDI は高度狭窄病変では血球除去ができないためプッシュ法をしなければ病変末梢側の観察はできない。しかし生食をフラッシュ溶液として使うことで血球除去が可能な症例もあるため当院では高度狭窄病変に対して積極的に使用している。ただ生食は粘稠度が低い為フラッシュの際に高い圧力がかかる危険性がある。OFDI における生食フラッシュにより Hematoma を形成した 1 例を経験したので報告する。【症例】77 歳男性。RCA の#3 から#4 分岐部の石灰化病変に対し Rotablator を予定していた。OFDI では CalcifiedNodule 様の突出物が観察できたがシグナルの減衰が強く血栓の要素もあると考えたためまず POBA で病変の反応を見ることにした。POBA 後に OFDI を施行するがその直後から胸痛と 2、3、aVf で ST 上昇を認めた。OFDI では PL 側に血腫を確認した。POBA によってできた解離が生食フラッシュによって血腫に進展したと考えられる。【まとめ】生食は粘稠度が低くフラッシュ圧が高くなるためそれにより血腫を形成したのではないかと考えられる。フラッシュの圧力を模擬血管を用いて実験を行ったところ造影剤 100％では 17.6±1.3psi、生食 100%では 32.5±4.2psi と生食フラッシュでは 1.8 倍の圧力になることが分かった。生食フラッシュでは POBA や Debalkingdevice 使用後には血腫や冠動脈穿孔の危険性があることを認識しなければならない